

## P-020

**「子育てひろば」に保護者は何を求めているのか？—子育てひろば利用者アンケートの分析を手がかりにして—その2—**細田 直哉<sup>1)</sup>、横尾 暁子<sup>2)</sup>、大豆生田千夏<sup>1)</sup><sup>1)</sup> 国立市幼児教育センター、<sup>2)</sup> 田園調布学園大学 子ども教育学部 子ども教育学科

1) 研究の背景と目的 少子化問題に対応するため、過去35年間にわたり日本の子育て支援は拡充され、2024年にはこども家庭庁が発足した。これにより、今後はさらなる支援体制の一元化と、子どもの権利を尊重した質的充実が目指されている。各地で多層的で多面的な支援体制の整備が加速しており、X市では202X年に多世代が集う多機能型子育て支援施設が開設され、地域の支援体制が強化された。これらの支援が実際に子育て世代に役立つものとなるため、本研究では保護者にアンケートを実施し、保護者が求める子育て支援の場、機会、内容を明らかにすることを目的とする。2) 方法 2024年5月から8月にX市の子育て支援施設（以下、「子育てひろば」とする）の利用者を対象とした無記名のアンケート調査を実施した。分析対象者は204名（女性168名、男性36名）である。保護者が子育てひろばに求めているものを明らかにするため、量的な分析に加えて、子育てひろばの満足度の理由に関する自由記述を修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、M-GTAと略記する）を用いて質的に分析した。本発表では、主に質的分析の結果について報告する。3) 結果と考察 アンケートの回答を量的に見れば、満足度に関しては95.5%が「満足」「ほぼ満足」であり、「やや不満」「不満」は4.5%に過ぎない。この結果だけを見れば、X市の子育てひろばはかなり成功している。しかし、保護者は子育てひろばに何を求め、どこに満足／不満を感じているのか。それを構造的に把握しなければ、現状の強みも課題も、今後の実践の方向性も見えない。そこで、満足度の理由に関する204の自由記述をM-GTAを用いて分析し、満足／不満の理由に関する65個の概念を生成した。さらに、概念間の関係に注目し、全体の構造が把握できる概念図として整理した。その結果、保護者が子育てひろばに求めるものとして、【いつでも気軽に行ける場所】【温かく迎えられ、個人として尊重される場所】【子育てを支えられる場所】【安心と夢中が保障される場所】という4つの重要な柱があることがわかった。さらに、その重要な柱をめぐる具体的な経験によって、「満足／不満」の評価が分かれていることが見えてきた。M-GTAは仮説生成的な分析方法であるため、この仮説に基づいて実践の方向性を修正し、仮説の検証と実践の改善を進めていくことが今後の課題である。